

景観まちづくり学習助成事業実施校

学校名 淡路市立一宮小学校

① 学習指導案

プログラム	No.5 「地域カルタをつくろう」
単元名 (全12時間)	発見！一宮のまちのす・て・き
学習のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ○ 一宮のまちには自然や歴史・文化、産業等、たくさんの魅力があることに気づく。 ○自分が見つけた一宮のまちの魅力を絵や写真、十七音などで表現し発信する。
学習内容	1 社会科「わたしたちのすんでいるところ」 2 国語科「俳句に親しむ」 3 総合的な学習の時間「一宮のまちのす・て・きでカルタあそびをしよう」 4 特別活動「一宮のまちのす・て・きを伝えよう」
参考資料	参考資料：「景観まちづくり学習助成事業モデルプログラム」
準備品	準備品：タブレット
実施場所等	校外学習実施場所：一宮小学校周辺

学習の流れ

時間	学習活動	教師の指導	評価
1	<p>社会科</p> <p>生活科での学習や日常生活を手がかりにして、学校周辺の様子について関心をもつ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 旧4小学校の校旗から、「郡家」「尾崎」「山田」「江井」という地名に着目させる。 ○ それぞれの場所はどのあたりのことを指すのか、まちの様子はどのようにかを尋ね、発表させる。 ○ 実際にそれぞれの場所を探検し、確かめることを学習課題とする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 友だちの発表を聞き、自分たちが住んでいるまちの様子について関心をもっている。(学びに向かう力)
2	<p>社会科</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「郡家」を徒步で探検する。 ・郡家漁港で、漁業組合の方のお話を聞く。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 大きな道路に沿って店が並んでいることに気づかせる。 ○ 帰校後の振り返りの際、地図アプリを使用して俯瞰し、まちの広がりの様子を感じ取らせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 調べたいことや調べる方法を考え、探検の計画を立てている。 ○ 気づいたこと

			や発見したこと を写真に撮った りメモを取った りしてまとめて いる。（思・判 ・表）
2	<p>社会科</p> <ul style="list-style-type: none"> 「北山」を徒步で探検する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「郡家」と「北山」とを比較するという視点を与える。 ○ 帰校後の振り返りの際、地図アプリを使用して俯瞰し、田んぼが多いことに加え、その山側にはため池が多く存在することに気づかせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 「郡家」との相違点に気づき、比較しながら気づいたことなどをまとめていく。 <p>（思・判・表）</p>
1	<p>国語科</p> <ul style="list-style-type: none"> カルタの起源と遊びについて学ぶ。 「俳句に親しむ」の学習を想起し、見つけたまちの魅力を五・七・五で表現する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ カルタ遊びへの関心を高めさせ、自分たちでカルタを作りたいという意欲を持たせる。 ○ 季語を使うことに縛られず、町の魅力が伝わる作品を作るようさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎自分が見つけたまちの魅力を五・七・五の十七音で表現している。 <p>（知・技）</p>
2	<p>総合的な学習の時間</p> <p>自分が作った俳句（川柳）の絵札と読み札を作る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ いくつかのカルタを提示し、自分が作った俳句（川柳）に合う絵札を作るようさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎俳句（川柳）の言葉に合った絵札を作っている。 <p>（知・技）</p>
2	<p>総合的な学習の時間</p> <p>自分たちが作った「一宮の町のす・て・き」カルタを使ったカルタ遊びを通して、一宮小学校周辺の魅力を紹介し合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 単にカルタ遊びをするのではなく、「一宮のまちのす・て・き」を伝え合うようにさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎カルタ遊びを通して、一宮のまちの魅力を感じている。（思・判・表）

	<p>社会科</p> <p>一宮小学校周辺の探検活動を振り返りながら、絵を描き加えたり写真を貼ったりして「一宮のまちのす・て・き」絵地図を完成させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 絵地図にして表すことのよさを想起させ、「郡家」「北山」それぞれのまちの魅力が伝わる絵地図を作るようさせる。 ○ 空間的な広がりを意識しながら絵地図にまとめようとしている。 (思・判・表)
	<p>総合的な学習の時間</p> <p>(授業参観)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 絵地図とカルタを使って、一宮小学校周辺の町の魅力を紹介する。 ・ 保護者と一緒にカルタ遊びをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 聞き手を意識して、話し方を工夫しながら「一宮のまちのす・て・き」を発表すようにさせる。 ○ 声の大きさや話す速さだけでなく、指差し等の工夫をし、自分が見つけた「一宮のまちのす・て・き」を伝えようとしている。 (知・技)
0.5	<p>特別活動 (児童朝会)</p> <p>学年発表として、絵地図とカルタを使って一宮小学校周辺のまちの魅力を紹介する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 聞き手の中には低学年の子がいることを意識して、話し方を工夫しながら「一宮のまちのす・て・き」を発表すようにさせる。 ○ 声の大きさや話す速さだけでなく、指差し等の工夫をし、自分が見つけた「一宮のまちのす・て・き」を伝えようとしている。 (知・技)

<留意点>

社会科：絵地図を作成する際、絵画としての出来栄えを求めるのではなく、第2学年で学習した絵地図のよさを想起させる。

国語科：俳句の成立要件である季語にはこだわらず、五・七・五のリズムや言葉の響きに親しみながら、一宮のまちの魅力が伝わる作品となるよう指導する。

② 事業実施報告書詳細

学校名 淡路市立一宮小学校

時間数	場所	概要	活動記録（写真）	対象者の反応
1	教室	○ 第2学年生活科での学習や日常生活から想起し、学校周辺の様子について思いついたことを発表し合う。		・家の近くなのに知らなかった。 ・スクールバスで通っているから、知らないことが多いな。
2	学校周辺（郡家）	○ 約60分程度、徒步で探検する。 ○ 郡家漁港では、漁業組合の方からお話を聞く。 ○ 気づいたことや発見したものをメモに取ったりや写真に撮ったりして記録しておく。		・いつも通っている道なのに、こんな建物があったなんて知らなかつた。 ・せっかく川べりに道があるのに、草だらけのは残念だな。
2	学校周辺（北山）	○ 約60分程度、徒步で探検する。 ○ 高台の安全な場所で休憩時間を取り、校舎や周辺の景色を見る。 ○ 気づいたことや発見したものをメモに取ったり屋写真に撮ったりして記録しておく。		・避難訓練のときに上った道だけど、こうして景色を見ながら歩くと気持ちがいいな。
1	教室	○ カルタの起源と遊び方を知る。 ○ 見つけたまちの魅力を五・七・五で表現する。		・五・七・五に合わせるのは難しいな。 ・一宮の素敵が伝わるように作りたい。
2	教室	○ 作った俳句（川柳）の絵札と読み札を作る。		・写真を見ながら、そっくりの絵を描きたい。

2	教室	○ カルタ遊びを通じて、一宮のまちの素敵を伝え合う。		・いい表現だね。 ・一宮の素敵がよく伝わってくるよ。
1	教室	○ 「一宮のまちのす・て・き」絵地図を完成させる。		・タブレットで写真を撮ってあるから、きちんと作れるね。
1	教室	○ 絵地図とカルタを使い、保護者に一宮のまちの素敵を紹介する。		・緊張したけど、大きな声で発表できてよかった。
0.5	体育館	○ 絵地図を使い、児童朝会で全校生に「一宮のまちのす・て・き」を発表する。		・どきどきしたけど、みんなが一生懸命聞いてくれてうれしかった。 ・「一宮のまちのす・て・き」が本当に伝わっているといいな。

③ 実施内容について

(1) 実施にあたり工夫した点

- 「町探検」実施前に下見を行い、主な立寄り先を決めておく。またその際、タブレットを使用し、主な建物等の画像を撮っておいた。
- 「町探検」をして感じたことを言語化して残しておけるよう、ワークシートを準備した。

(2) 実施にあたり苦労した点

- 雨天の場合は延期するしかなく、授業の進め方に苦慮した。
- 下見を行うための時間を確保することが難しかった。

(3) 児童の反応

- 偶然出会った地域の方たちに声をかけてもらったりその場所について説明をしてもらったりしたことを喜んでいた。
- これまでではあって当たり前の風景だと通り過ぎていた場所が、立ち止まって見ることで、違う風景に見え、新鮮に感じている様子だった。
- 自分が生まれ育ったまちなのに、知らないことがたくさんあって驚く児童が大勢いた。その反面、新たな発見をし、あまりのうれしさに、家に帰って家族に伝えたという声が多く聞かれた。
- もっともっと一宮のことが知りたくなったという声や、自ら祖父母に尋ね、新しく知ったことを教室で発表する児童もいた。
- 自分たちのまちを好きになったという児童の姿が多く見られた。

(4) 担当教諭及び担当外教諭の変化

- 地元ではない教員にとっては、とてもよい学びの機会となっている。
- 児童にふるさとの魅力を感じさせるには、教師自らがその地域のことを知っておくことが大事だと改めて感じた。
- 校内研修として地域学習を行うきっかけとなった。
- 下見に出かけた際、偶然出会った地域の方と交流し、つながりができた。

(5) 今後の課題と取り組み〔児童の思考過程と指導内容との関連付けから、留意すべき事項等〕

- 主体的な学びとなるよう、実際に校区に出かけ魅力を発見したい・自分たちが見つけたふるさとの魅力を知ってもらいたいという意欲を持たせる工夫が必要である。
- 児童の意欲と時間数とのバランスを維持するための手立てを考えておく。
- 自分の足で歩き、目で見て確かめができるよう、計画する事が大切である。
本校は、旧4小学校からなる統合校であるため、校区が非常に広い。学校周辺の地区に限らず、万遍なく校区内を巡るには交通手段が大きな課題となる。現地に出向き、景色や風や香りなどを五感で感じ、地域の方たちとふれあうことを一番に大切にしていきたい。しかしそれが難しいときには、地域の方に学校へ来ていただきたり、ICTを活用したりしながら、それぞれの地区のよさを知る機会を設け、「一宮」のまちを自分のふるさととして誇りを持ち、ふるさとのよさを守り続ける人になってもらえるよう取組を続けていきたい。